

知事

第 種

第 號 昭和 年 月 日施行 淨書

昭和三年七月十二日立案 昭和 年 月 日決裁

校合 原書 淨書

部 課主任

内務部長

内務課長 課僚

秘書課長

同

高松宮殿下本月十日御成行際之知事(三ノ)
殿勢ノ概況御言上ノ豫定ニ付五ノニ御言上
記項目ニ付調査可キ年ノ初約云

一 石炭事情

二 食糧事情

三 羽揚及援護ノ状況

四 戦災復興ノ状況

五 今回執事ノ進歩ノ状況

六 戦災復興ノ進歩ノ状況

七 戦災復興ノ進歩ノ状況

八 戦災復興ノ進歩ノ状況

九 戦災復興ノ進歩ノ状況

十 戦災復興ノ進歩ノ状況

十一 戦災復興ノ進歩ノ状況

十二 戦災復興ノ進歩ノ状況

十三 戦災復興ノ進歩ノ状況

十四 戦災復興ノ進歩ノ状況

十五 戦災復興ノ進歩ノ状況

總裁高松宮御視察日程表(案)

恩賜 財団 同胞援護會福岡縣支部

同日	時間	摘	要	所要時間	備考
四月十六日	一一三〇	博多 駅御着		〇五	
	一一三五	同 駅御着		〇五	
	一二〇〇	宿泊所御着 (貝島邸)		二五	同候 拝謁(御中食)
	一二三〇	宿泊所御着		二五	
	一三五五	博多引揚援護局御着		二五	埠頭引揚状況御視察
	一四五五	同所御着		〇五	
	一五〇〇	在外同胞援護會救療部(聖福寺)御着		〇五	同所御視察
	一五二〇	同所御着		〇五	
	一五二五	同胞援護會県支部経営博多駅前引揚着		〇五	同所御視察
	一五四〇	休憩所御着		一五	同所御視察
四月十七日	一六一五	筑紫病院御着		一五	同所御視察
	一七一五	同所御着		〇〇	
	一七三五	宿泊所御着		二〇	御泊(拝謁)
	一八三〇	宿泊所御着		一五	
	八 〇五	春日原沖繩果人引揚着收容所御着		二〇	同所御視察
	九 〇五	同所御着		二〇	
	九 三〇	博多引揚援護局保養所御着		二五	同所御視察
	一〇〇〇	同所御着		三〇	
	一〇四〇	久留米市援護住宅(九五郡殿)御着		四〇	同所御視察
	一一二〇	同所御着		四〇	
四月十八日	一一三五	宿泊所御着 (石橋別邸)		二五	同候 拝謁(久留米地方) (御中食)
	一二〇〇	同所御着		二五	
	一四一〇	大牟田市銀水清生會大牟田病院御着		二〇	同候 拝謁(久留米地方) 同所御視察
	一四四〇	同所御着		三〇	
	一五五〇	久留米市日本云株式会社久留米工場御着		二〇	同所御視察
	一六二〇	同所御着		三〇	
	一六三五	宿泊所御着		一五	御泊
	七 一〇	宿泊所御着		三〇	
	七 四〇	鳥栖 駅御着		三〇	
	七 四二	鳥栖 駅御着		三〇	
四月二十日	七 五〇	鹿見島 駅御着			佐世保へ
	一八三五	博多 駅御着			
	一八四〇	博多 駅御着 (急行)			

四、引揚部人及復自者接獲ニ付テ

博多引揚接獲局ハ國條^設以來關係職員收容ノ
 都合ニ依リマシテ總務部ヲ若田屋百貨店ニ、其ノ
 外邦其他ハ博多港埠頭ニ分離政ニテ居リマシテ
 關係上業務遂行^其ニ多大ノ支障^ハアリマシタカ
 三月十八日^日總務部ヲモ娵^ト遷^シレテ後ニマシタノヲ
 茲ニ接獲局本來ノ業務ニ邁進^シ得^ルニ體制^カ
 整^リマシテアリマス

5

四月十日現在迄ニ引揚ヲ完了^シマシタノ教^ハ一般印人
 二九三、一九四名、陸軍國條二二四七七三名、海軍
 國條二四、九四八名 計五三三、九一五名ニ達^シテ
 居^リマス
 之ヲ引揚者ノ接獲ニ付^テマシテハ人主職員一律ト
 成^リマシテ之ヲ萬全^ト期^ステ居^ルニ此等^ノアリマス
 更^ニ之ヲ強化徹底^シテ國ハ爲^ル局^ノ一^部ニ
 引揚接獲相法^ヲ示^シテ得^ルニ政^ニマシテ一日平均
 五百名^ノ上^ニ引揚者中留守宅ノ人々ノ各種
 相談^ニ應^ジテ居^リマス
 其^ノ要^ニ細^ニ言^フマシテハ以^テ表^スル^ル即^チ說明^申上^ルハ
 事^ト取^リテ居^リマス

各地域別引揚者教一覽表

昭和二十一年四月十一日
博多引揚機務局

引揚者種別	朝鮮 滿洲	北支	中支	沖繩	北島	二一	港 對 馬	計	一日 平均
終戰後 30日迄	一般邦人 194,612	8,607					1,136	204,355	
	陸軍 53,688	866	94	692				55,340	
	海軍 13,852		16	1260				15,128	
	計 262,152	9,473	110	1,952			1,136	274,823	
十一月	一般邦人 27,965	7,677			230			35,872	
	陸軍 2,020	2,234		1,664	3,990			10,714	
	海軍			342	559			901	1,531
	計 27,991	10,911		2,006	4,579			47,487	
	累計 292,143	20,384	110	3,958	4,579		1,136	322,310	
一月	一般邦人 6,753				24			6,807	
	陸軍 30		6,602		156	109		6,897	
	海軍		726		109			835	469
	計 6,813		7,328		289	109		14,539	
	累計 298,956	20,384	7,438	3,958	4,868	109	1,136	336,849	
二月	一般邦人 3,738	163	3,239					7,160	
	陸軍		16,636					16,636	
	海軍		839					839	879
	計 3,738	163	20,714					24,635	
	累計 302,714	20,547	28,152	3,958	4,868	109	1,136	361,484	
三月	一般邦人 10,231		10,362					20,593	
	陸軍 21,111		102,640					103,855	
	海軍		7,167					7,167	4,245
	計 10,252	1,195	120,169					131,616	
	累計 312,966	21,742	148,321	3,958	4,868	109	1,136	493,100	
四月 （百三十日迄）	一般邦人 6,502	108	11,797					18,407	
	陸軍		128,212					21,330	
	海軍		78					78	3,981
	計 6,502	236	33,077					39,815	
	累計 319,468	21,978	181,398	3,958	4,868	109	1,136	532,915	

地方長官會議ニ於ケル厚生大臣說示要旨

(昭二二、二五)

長官各位ノ會合ニ際シ、當省所管ノ事項ニ関シ所懷ノ一端ヲ申述スル
機會ヲ得マシタコトバ、私ノ洵ニ欣幸トスル所デアリマス。

一 緊急就業對策

政府ガ今回我が國ノ産業經濟及金融部面ニ大手術ヲ施ス決意ヲ固メ、經
濟危機緊急對策ヲ實行ニ移スニ當リマシテ其最大ノ目標ガ生産ノ振興ト
失業者群ノ一掃ニアルコト申述モアリマセヌ

然ルニ、現下ノ産業經濟界ハ原料燃料ノ不足等ノ事情ニ制約セラレ、遺憾
乍ラ之ガ急速ナル振興、進展ヲ期シ難ク爲ニ多敷ノ就業不能者即チ失業前
ヲ發生シテ居ル實情ニ在ルコトハ御承知ノ通りデアリマス。

之等失業者ノ狀況ハ、昭和二十二年十二月施行ノ臨時國民登録ニ依リバ、無業
者ハ總數三百三十三萬人、内譯男子百七十八萬人、女子百五十六萬人ヲ算シ

之ニ所謂潜在失業者ヲ加ヘマス就職ヲ要スル失業者總數ハ實ニ五百萬人ト推定セラレ、更ニ最近ニ於ケル復員、海外引揚、行政整理、自然増等ノ事情ヲ綜合致シマスレバ、昭和二十年十二月一日ヨリ本年三月末日迄ニ於ケル失業者總數ハ大体五百八十三萬人ト推定セラレルノデアリマス。

而シテ之等ノ中同期間内ニ歸農計畫、石炭、造船、鐵道車輛等ノ民需産業又ハ河川、港灣、住宅其ノ他ノ土木建築事業等ノ方面ハ約百八十三萬人就業スルモノト概算致シマシテモ、本年四月當初ニ於ケル失業者總數ハ尚差引四百萬人余、内知識階級失業者ハ約八十萬人ト推算サレルノデアリマス。此ノ巨大ナル失業群ガ凡ユル社會悪ノ根源ヲ爲シテ國民生活ノ不安ヲ醸成シ、動モスレバ新日本建設ノ前途ニ重大ナル障碍ヲ齎サントシテ居ルノデアリマス。此ノ多數ノ失業者ヲシテ如何ニシテ健全ナル職業ヲ確保セシムルカ、其ノ勤勞カト産業ノ振興ヲ如何ナル形ニ於テ結合セシメルカ、新日本建設ノ鍵ハ懸ツ

テ此處ニ於テ考ヘルノデアリマス。

先般不學生省ニ設置致シマシタ中央失業対策委員會ニ於テモ、當面ノ失業対策トシテ最ニ緊要ナル事項ハ民需産業ヲ急速ニ振興セシムルコトニ在ルトナシ、之ガ爲ニハ各般ノ悪條件ヲ克服スル必要ガアリ、就中其ノ基本的問題トシテ食糧及石炭ノ問題、更ニ金融、價格等ノ問題ヲ速急解決スル必要ガアルト、意見ノ提出ガセラレタノデアリマス。現下ノ深刻ナル社會情勢ヨリ見テ失業対策ハ籍スニ時日ノ餘裕ナク實ニ今日ノ問題デアリマス。取敢テ政府自ラ職業ヲ開拓シテ多數失業者ニ就職就業ノ機會ヲ得セシムルコトトシタノデアリマス。即チ政府ハ失業対策ノ重要ナル一環トシテ左ノ如キ緊急就業対策ヲ決定致シマシタ。

第一 被災地ノ徹底的整理、河川道路改修、住宅建築、電氣事業ノ補強及農業土木ノ施行

第二 歸農計畫ノ實施

第三 石炭 纖維 草鞆及輸送事業ヘノ勞務ノ充足

第四 食糧 通信及輸送運搬等ノ生活關係組織ノ整備

第五 各種文化調査研究機關ノ整備

第六 知識階級失業應急救済事業ノ實施

第七 職業輔導施設ノ整備擴充

第八 校産 内職施設ノ擴充

第九 職業斡旋設備ノ整備強化

等ニ付必要ナル諸般ノ措置ヲ講ズルコトヲ致シテアリマス。

尤モ前記ノ事業ノ實施ニ付キマシテハ、資材其ノ他ノ關係ヨリシテ直ニ

ニ着手スルコト困難ナルモノガアルト考ヘマスガ、政府ニ於テハ速急共ニ具體

ニ行目下全カヲ集中シ、各般ノ準備ヲ取急イテ居リマス。地方ニ於テモ之等

大ニ施策ニ即應シ、地方的事情ニ適應セル各般ノ事業ヲ計畫實施シ、

テ失業ノ救済ニ資セラルル様格段ノ御努力ヲ切望スル次第デアリマス。

一、生活援護対策

政府ハ曩ニ述ベマシタ通り國民ノ就業對策ヲ樹立スルト同時ニ、
 現在已ムヲ得ナル事情ニ依リ職ヲ得ル能ハズ、或ハ諸種ノ事情
 情ニヨリ日々ノ生活ニ困窮致ス者カ多数ニ上ル實情ニ鑑ミマ
 シテ、一般生活困窮者ハ素ヨリ、失業者、戰災者、海外引
 揚者、在外留守家族、傷痍軍人及軍人ノ遺族家族等ニシテ
 生活ニ困窮ヲ告グル者ニ對シ、其ノ當面セル困窮ノ状態ヲ
 救ヒ、生業ノ成リ立テ得ルヤウ速カニ援護ノ措置ヲ講ズル必
 要ヲ認め、曩ニ閣議ヲ以テ生活困窮者緊急生活援護
 要綱ヲ決定シ、援護ヲ要スル者ノ世帯ノ實情ニ即シタル
 援護ノ徹底ヲ期スルコトト致シタ次第ニ下リマス。以
 上ノ援護ノ實施ニ當リマシテハ、單ナル金錢給付ニ墮スル

事無ク、生活必需物資ヲ給與スル如ク努力致シテ居リマ
 スガ、之ニ関シマシテハ各位ノ特段ノ御助力ヲ願ヒマス
 更ニ政府ニ於キマシテハ國民生活ノ安定確保方策ノ一環ト
 シテ、現行各種救護關係法規ヲ綜合調整シ、國內情勢ニ即
 應セル保護對策ヲ講ズルヨウ目下之か法制化ニ着手致
 シテ居ル次第テアリマス。又之等ノ措置ニヨル保護ヲ一段ト
 圓滑適正ニ實施致シマス爲ニ此ノ際差當リ恩賜財團踐
 災援護會及恩賜財團軍人援護會ヲ統合シ、新ニ新團
 體ニ設立スルコトニ致シマシタ。而シテ將來ハ在外同胞
 援護會ヲモ之ニ包摂シ、強カナル援護體制ヲ確立スル
 所存テアリマス。

1319

各位ニ於ケレマシテハ敍上ノ趣旨ヲ十分體セラレ、市町村
 方面委員等ノ關係機關ヲ督勵スルト共ニ、地方ニ於ケル之
 か下部團體ヲ指導セラレマシテ、援護ノ徹底ヲ期セラルルマ
 ヲ御配意ヲ煩シ度イノテアリマス。

一 引揚者援護

次ニ在外同胞ノ引揚狀況ニ付キマシテハ、一月三十一日現在ニ於テ
 引揚者數約百十三萬人ニ達シ、特ニ比島其ノ他南方諸地域、
 中國方面等ハ豫想以上ニ促進セラレテ居ルノテアリマス。

之等引揚者ニ對シマシテハ從來十一ヶ所ノ引揚援護局ニ於
 テ、檢疫、宿泊、物資ノ給與、輸送、療養等ヲ通ジテ應急
 援護ヲ行ツテ來タノテアリマスガ、近ク多數ノ米船貸與ニヨリ
 引揚者カ増加致シマヌル爲、新タニ田邊、別府、唐津ノ三港

ニ引揚援護局ヲ設置スルト共ニ、宿泊施設、擴充整備食糧、被服具、他所要物資ノ確保等ヲ圖リ、以テ援護ノ徹底ヲ期シテ居ル次第アリマス。之等引揚者ノ定着地於ケル援護ニ就キマシテハ、近ク家敗購入ノ困難ナル者ニ對シ所要家財ノ購入ヲ確保スルヤウナ措置ヲ講ズベク、目下ソノ具体策ヲ立案中ニアリ、生計困難ナル者ニ對シテハ國內生活困窮者ト同様ノ生活援護ヲ行ヒマスル外、無緣故者ニ對スル收容施設ノ設置、國立病院、同療養所ニ於ケル療養援護、其ノ他就職斡旋、精神指導等ヲ實施シテ居ルノニアリマス。何分ニモ一時ニ引揚者が殺倒スル為メ援護ノ徹底ヲ欠ク虞モアリマス。近ク引揚者援護專

務ヲ管掌スル中央機關ノ擴充ヲ圖リ、能ク限り援護ノ完璧ヲ期スル所存ニアリマス。

尙聯合國軍總司令部ヨリノ指令ニ基キ、内地在任朝鮮人、中國人、沖繩縣人及台灣省民ノ歸還希望ノ有無ヲ決定スル爲、來ル三月十八日午前零時現在ニ於テ之カ登録ヲ實施スルコト、ナリマシタリ。近ク具體的措置ヲ御示シスル豫定ニアリマス。本登録ハ歸還希望者ノ早急ナル歸國ヲ促進セシムルモノニアリ、又登録セハルモノハ歸還ノ特權ヲ失フコト、ナリマス。之カ實施ニ付テハ適確ヲ期シテ頂キタイノニアリマス。

一、勞働問題

最近勞働運動が各地ニ於テ活發ニ展開サレ、續々勞働

組合が結成セラレテ居リマスが、先般公布セラレマシタ勞
 働組合法モ三月一日施行ノ豫定ニアリマス。各位ハ能
 ク現下ノ勞働情勢ヲ把握セラレ、法ノ運用ニ関シ遺
 憾ナキ様努力サレタイノニアリマスが、就中勞働組
 合法ニ基キマシテ設置サレマスル地方勞働委員會ハ
 本法ノ運用上極メテ重要ナル機關ニアリマスカラ、
 其ノ運営ニ関シテハ特ニ萬全ヲ期セラレ度イノニア
 リマス。

次ニ勞働爭議ノ頻發ニ伴ヒ、暴行、脅迫等ノ不
 法行為が發生致シマシタル時ハ充分之ヲ取締ル必
 要カアリマスコトハ勿論ニアリマスが、爭議ノ解決ニ
 際シマシテハ常ニ嚴正公平ナル立場ヲ堅持シ、權力的

壓迫ニ拂ルガ如キ事無ク、地方勞働委員會ヲ活用シ
 テ機ニ應ジ其ノ迅速且合理的ナル解決ヲ計ル様御努力ヲ
 願ヒマス。

以上述べマシタ如ク、政府ハ今回ノ經濟危機緊急對策
 實施ニ伴ヒ、國民ノ就業並ニ生活援護對策ノ強カナル
 實施ノ為ニ、萬難ヲ排シテ努力邁進セントスルモノニア
 リマスが、各位モ亦政府ノ意ノアル處ヲ諒トセラレ、
 國民ノ生活ヲ安定スルコトニ依リ經濟危機ヲ突破シ、
 以テ新日本ヲ建設スル為ニ充分ノ御努力ヲ願ヒ
 度イト存ジマス。